

2015 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題 I 中国の皇帝制

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 出題範囲 | 古代～近代の政治史 |
| 難易度 | ★★★★☆ |
| 所要時間 | 30分 |
| 傾向と対策 | すべての問題が論述問題であることに加え、かなりの難問がいくつか含まれているため、非常に難しい大問であった。名古屋大学は教科書に載っている知識では解ききれない難問を出題することがあるが、このような問題の対策のみに目を向けないように気をつけたい。また、語句説明の問題がいくつか出ている。このような問題は知識があれば解ける問題であるし、名古屋大学以外の入試でも出題されることが多々あるため、語句の意味はしっかりと説明できるようにしよう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

- 問 1 郡県制は、全国を郡に分け、その下に県を設置して、中央から官吏を派遣し統治させる中央集権的地方統治制度である。始皇帝が郡県制を全国化した紀元前 3 世紀から、清朝が滅び皇帝の時代が終わる 20 世紀まで続いた。(99 字)
- 問 2 中書省は皇帝の詔勅を立案・起草した。門下省は中書省から送られてきた詔勅を審議し、これを修正または拒否した。尚書省は六部を管轄して詔勅を実施した。(72 字)
- 問 3 14 世紀後半に明の洪武帝が、中書省と長官の丞相を廃止して、六部を皇帝直屬にしたことで、皇帝独裁の体制が整った。(54 字)
- 問 4 明で設置され皇帝独裁を支えた内閣は肥大化し、内閣を通じた事務処理は煩雑となっていた。その後、軍事機密を守るという名目で雍正帝により設置された皇帝直屬の諮問機関である軍機処が内閣の職務を吸収し、軍事・政治の最高機関となって清代の皇帝独裁を支えた。(122 字)
- 問 5 1912 年に皇帝制は廃絶され、これにより中華民国が成立した。中華民国の成立は、皇帝独裁に終止符が打たれた、漢人による中国統治が回復された、アジア初の共和制国家が成立したなどの意義をもつ。(91 字)

問1 難易度：★★★★★

解答例

郡県制は、全国を郡に分け、その下に県を設置して、中央から官吏を派遣し統治させる中央集権的地方統治制度である。始皇帝が郡県制を全国化した紀元前3世紀から、清朝が滅び皇帝の時代が終わる20世紀まで続いた。(99字)

設問の要求

字数 約14.1cm×3行

主題 郡県制がどのような制度であるか、また何世紀から何世紀まで続いたのか

解説

郡県制がどのような制度であるかはしっかりと答えられなければならない。説明できなかった人はしっかり復習しておこう。何世紀から何世紀まで続いたのかに関しては、解答が確定できない問題である。どう書けばいいか迷った受験生が多いと思われるが、このような問題は早めに見切りをつけるのがよい。

まず何世紀から始まったかについてであるが、B.C.4世紀とB.C.3世紀の2通りが考えられる。郡県制を創始したのは秦の孝公であるので、そう考えるとB.C.4世紀からということになる。しかし、本文を読むと「後者はまた皇帝の時代と言ってもよいだろう」とある。つまり、郡県の時代が皇帝の時代だということであり、この1文を考慮すると、始皇帝が郡県制を全国化したB.C.3世紀が答えとなる。よって解答ではB.C.3世紀とした。

何世紀まで続いたかであるが、こちらは6世紀と20世紀の2通りが考えられる。隋が郡を廃止して州県制を導入したのは6世紀であるので、このように考えると答えは6世紀までということになる。しかし、州県制の内容と郡県制の内容はほぼ同じであり、郡県制は名前を変えながら清朝が倒れるまで継続している。さらに郡県の時代が皇帝の時代であることを考えると、郡県制は清朝が倒れる20世紀まで名前を変えながら実質的には継続したともいえよう。

以上より、素直に解答を書くならばB.C.4世紀から6世紀まで、本文を意識した解答をつくるならばB.C.3世紀から20世紀までとなるだろう。解答例では後者を採用した。

問2 難易度：★★☆☆☆

解答例

中書省は皇帝の詔勅を立案・起草した。門下省は中書省から送られてきた詔勅を審議し、これを修正または拒否した。尚書省は六部を管轄して詔勅を実施した。(72字)

設問の要求

字数 約14.1cm×3行

主題 三省のそれぞれの名称とその職務について

解説

この設問は問題Iの中では簡単な問題なので、満点答案を書きたい。なお、門下省は貴族の根城となったということは重要な事項だが、要求されているのはあくまで三省の名前とその職務の説明であるので、貴族についてはふれないほうがよい。論述問題の解答は自分の知識をひけらかすのではなく、設問の要求に沿って書くべきである。

三省とは、唐の時代に皇帝に直属した 3 機関で、**詔勅の立案を行う中書省**、**詔勅の審議を行って修正または拒否する門下省**、**詔勅を実施する尚書省**があった。六部は尚書省の管轄下にある 6 つの行政機関であり、吏部・戸部・礼部・兵部・刑部・工部からなる。

問 3 難易度：★★★★☆

解答例

14 世紀後半に明の洪武帝が、中書省と長官の丞相を廃止して、六部を皇帝直属にしたことで、**皇帝独裁の体制**が整った。(54 字)

設問の要求

字数 約 14.1cm×3 行

主題 明において皇帝への権力集中が制度的に完成したことを端的に示す事例を挙げる

条件 いつ、誰によって成し遂げられたかについても言及する

「いつ」については「何世紀の前半（後半）」という形で記す

解説

設問文の長さに対して要求されていることは比較的多いので、その要求にもれなく答えるように気をつけたい。

唐では皇帝と貴族の合議で政治が行われていたが、皇帝の詔勅を修正または拒否する権限をもつ門下省の力は非常に強く、門閥貴族の根城となっていた。しかし、貴族の力は次第に弱くなり、門下省と尚書省は形骸化していったため、政治は中書省と丞相を中心に運営された。そして、皇帝権の強化を図った**洪武帝**は、**中書省と丞相を廃止し六部を皇帝直属にした**。これによって皇帝独裁の体制が整った。

ほかにも、中央集権体制を整えるためのさまざまな政策が行われているので、この機会にしっかりと確認しておこう。

問 4 難易度：★★★★☆

解答例

明で設置され皇帝独裁を支えた内閣は肥大化し、内閣を通じた事務処理は煩雑となっていた。その後、**軍事機密を守る**という名目で雍正帝により設置された皇帝直属の諮問機関である**軍機処**が内閣の職務を吸収し、**軍事・政治の最高機関**となって清代の皇帝独裁を支えた。(122 字)

設問の要求

字数 約 14.1cm×3 行

主題 皇帝独裁に関して、清朝によって加えられた改変のうち、満州王朝ならではのもの

解説

設問文では「満州王朝ならではの」改変を挙げるように要求されているが、この要求のせいで何を書けばよいのかわかりづらく、かつ必要な知識も教科書の範囲を大きく逸脱した問題になっている。そこで、本来ならば設問の要求に忠実な解答を書くべきであるが、本解答では「満州王朝ならではの」という部分を「清朝ならではの」と解釈して書いた。

さて、単純に「清朝ならではの」の制度というと、軍機処や理藩院、満漢併用制などが挙げられるだろう。ただ

し、本文の文脈を考えると、「明初に確立された体制」つまり皇帝独裁体制に改変を加えたものを答えるべきであり、**軍機処について書くのが最も適切**である。軍機処は、雍正帝の時代にジュンガル部を征服するため**軍事上の機密を扱う臨時機関**として設置された。しかし、**明代に設置され皇帝独裁を支えた内閣が肥大化**し、事務処理が煩雑になっていたこともあり、**軍機処は内閣の職務を吸収**した。こうして**軍機処のもつ権限が軍事から政治まで拡大**して、**軍事・政治両面の最高機関となって皇帝独裁を支えた**。

ただし、解説の冒頭でもいったように、この解答は「満州王朝ならでは」の部分を「清朝ならでは」と解釈した場合のものである。「満州王朝ならでは」の部分を「満州民族による王朝ならでは」と字面に忠実に解釈して解答を書くとするれば、軍機処の満州王朝ならではの要素として、満州民族特有の部族合議制の会議である議政王大臣会議と、満州民族による王朝だからこそ生じた多言語間の文書の翻訳の問題についてふれるべきだろう。しかし、この2つの要素をしっかりと含んだ解答を書ける受験生はほとんどいないと思われるため、本解答のような解答を書ければそれで十分だろう。なお、議政王大臣会議や翻訳の問題についての解説は割愛するが、受験勉強の息抜きとしてこれらについて書かれている文献・論文を探して読むのもよいかかもしれない。

問5 難易度：★★★★☆

解答例

1912年に皇帝制は廃絶され、これにより中華民国が成立した。中華民国の成立は、皇帝独裁に終止符が打たれた、漢人による中国統治が回復された、アジア初の共和制国家が成立したなどの意義をもつ。(91字)

設問の要求

字数 約 14.1cm×3行

主題 皇帝制は西暦何年に廃絶されたか

皇帝制の廃絶によって成立した国家の名称を記したあと、この国家の成立がもつ意義を述べる

解説

基本的な事項が問われている問題であるので、確実に解答したい。1911年の**武昌蜂起**を機に始まった辛亥革命（第一革命）によって清朝が倒されると、**1912年に南京において、共和制国家である中華民国の建国が宣言**された。また、同年に**宣統帝（溥儀）が退位したことで清朝は滅亡**した。これにより中国では2000年以上続いた皇帝独裁に終止符が打たれた。これは中国で初めてであるのみならず、**アジアでも初めての共和制国家の誕生**であった。しかし、議会の力を抑えようとする袁世凱とこれに抵抗する孫文率いる国民党との対立が激しく、共和制は不安定であった。また、**中華民国の成立によって満州人の支配から漢人は解放**され、孫文の念願でもあった漢人中心の中国統治も回復された。

(谷口昂輝, 林遼河, 井小路瑞木)

2015 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題 II 西ヨーロッパ中世世界の始まり

| | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 出題範囲 | 中世～近代の政治・文化史 |
| 難易度 | ★★☆☆☆ |
| 所要時間 | 15分 |
| 傾向と対策 | 中世の始まりを画する出来事として、ゲルマン人の大移動とイスラーム世界の拡大の2つが問題文に挙げられており、それに関連した事項が問われている。名古屋大学の問題 II としては例年より記述問題が少なく、大半が知識問題となっている。確実に得点できるように基礎知識をしっかりと身につけよう。問3(2)(b)で問われているようなキリスト論について正確に理解することは困難だが、位格と実体の概念を理解していると説明しやすくなる。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問1 (a)ゲルマニア (b)タキトゥス

問2 (1)西ゴート族 (2)ヴァンダル族

問3 (1)メロヴィング朝

(2)(a)アリウス派

(b)イエスに人の位格を強く認めて神とは別の実体だとし、神・イエス・聖霊の3者は別の位格をもつが同一の実体であるとする三位一体説と対立した。(67字)

問4 (1)ランゴバルド族 (2)レオ3世

問5 (1)ムアーウィヤ (2)ダマスクス

問1 難易度：★★☆☆☆

解答

(a)ゲルマニア (b)タキトゥス

解説

ゲルマン人の社会に関する著作としては、カエサルの『ガリア戦記』（前1世紀）とタキトゥスの『ゲルマニア』（100年頃）が有名である。カエサルがガリア遠征の際に著した『ガリア戦記』は、簡潔に記されたラテン

散文の名文とされる。タキトゥスの『ゲルマニア』は素朴で勇敢なゲルマン社会を描くことで、退廃したローマ社会に警告を与えようとしたとされる。ちなみにガリアは現在のフランスとほぼ同じ地域を指す。

問 2 難易度：★★★★☆

解答

(1)西ゴート族 (2)ヴァンダル族

解説

- (1) 東ゴート族がフン人に征服されると、圧迫された西ゴート族は移動を開始し、376年にゲルマン人では最初にローマ帝国に侵入した。西ゴート族の移動以降、ゲルマン諸族は帝国領内へと大移動を開始し、西ローマ帝国内にゲルマン国家が相次いで成立した。
- (2) 西ローマ帝国内に建てられたおもなゲルマン国家は、西ゴート王国（ガリア西南部・イベリア半島）、ヴァンダル王国（アフリカ北岸）、ブルグンド王国（ガリア東南部）、アングロ＝サクソン七王国（大ブリテン島）、フランク王国（ガリア中部）、東ゴート王国（イタリア半島）、ランゴバルド王国（北イタリア）。

問 3 難易度：★★★★☆

(1)

解答

メロヴィング朝

解説

ビザンツ帝国庇護下のコンスタンティノーブル教会と対立していたローマ＝カトリック教会は、滅亡した西ローマ帝国に代わる新たな政治的保護者を求めてフランク王国に接近を図り、メロヴィング朝のクローヴィスを土着の多神教信仰からカトリックに改宗させた。この改宗はメロヴィング朝にとっても、住民の大半を占めるローマ系住民の懐柔につながるという点、他ゲルマン諸族の征服に異端からの解放という正統性を与えるという点で有利にはたらいた。

(2)(a)

解答

アリウス派

(2)(b)

解答例

イエスに人の位格を強く認めて神とは別の実体だとし、神・イエス・聖霊の3者は別の位格をもつが同一の実体であるとする三位一体説と対立した。(67字)

設問の要求

字数 約 13.7cm×2行

主題 アリウス派の教義の特徴について

解説

アリウス派は、イエスは人であって神とは別の実体だとし、三位一体説（神・イエス・聖霊の三者は別の位格をもつが実体としては一体）を唱えるアタナシウス派と対立した。アリウス派は 325 年にニケーア公会議で異端とされ、その後はローマ領域外のゲルマン人などに伝道された。このため、5 世紀以降に西ローマ帝国内に建てられたゲルマン国家の多くはアリウス派を信奉することとなった。カトリックのおもな宗派は下記のとおりである。

- ・アタナシウス派…カトリックの正統教義。「神格（神の位格）＝イエス＝聖霊の位格」（三位一体説）
- ・アリウス派…ニケーア公会議で異端認定。「イエス≠神格，イエス＝人格（人の位格）」
- ・ネストリウス派…エフェソス公会議で異端認定。中国に伝わる（景教）。「イエス＝人格＋神格」
- ・単性論派…カルケドン公会議で異端認定。「イエス≠人格，イエス＝神格」

問 4 難易度：★★★★☆**解答**

(1)ランゴバルド族 (2)レオ 3 世

解説

- (1) ピピン（3 世）はランゴバルド王国からラヴェンナ地方を奪って教皇に寄進した（ピピンの寄進）。その後カール大帝がランゴバルド族を滅ぼした。ランゴバルド族はアリウス派を信仰していた。
- (2) カール大帝は 800 年にローマ教会の教皇レオ 3 世から戴冠を受けた（カールの戴冠）。このようにカロリング朝の時代にはフランク王国とローマ教会の接近が進んだ。ちなみに、レオ 3 世は、聖像禁止令を発布したビザンツ帝国の皇帝レオン 3 世（レオ 3 世）とは別人である。混同しないように注意しよう。

問 5 難易度：★★★★☆**解答**

(1)ムアーウィヤ (2)ダマスクス

解説

第 4 代カリフであるアリーが暗殺されたのち、シリア総督ムアーウィヤはカリフとしてダマスクスを都にウマイヤ朝を建てた。7 世紀末以降、ウマイヤ朝は支配地を拡大して地中海域に及ぶ大帝国を築き上げた。さらに 711 年には西ゴート王国を征服し、しばしばフランク王国に侵入したが、732 年のトゥール・ポワティエ間の戦いでフランク王国の宮宰カール＝マルテルに撃退された。

（的場光紀，是永郁治，井小路瑞木）

2015 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題III 18 世紀後半～19 世紀前半のフランスの政治状況

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 出題範囲 | 近代の政治・社会史 |
| 難易度 | ★★★★☆☆ |
| 所要時間 | 20 分 |
| 傾向と対策 | 18 世紀から 19 世紀にかけては 1848 年革命など各国で同時期に様々な歴史的事象が発生しており、受験世界史的に極めて重要な時期である。地図を頭に描きつつ、同時期に起こった事象をうまくとらえる勉強を心掛けよう。また名古屋大学では例年問題IVで長めの論述問題が出題されているため、受験生としてはそこに時間をかけたいところである。本問のように知識で解答可能な問題は素早く終わらせよう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問 1 (①) E (②) C (③) B (④) D

問 2 所有権

問 3 (1) ツァーリがポーランド王位を兼任したことにより、ポーランドは事実上ロシア領となった。(41 字)
 (2) ウィーン会議中に成立したキリスト教の友愛精神にもとづく君主間の同盟で、自由主義やナショナリズムの運動を抑えることを目的とした。イギリス王・オスマン帝国スルタン・ローマ教皇を除くヨーロッパの全君主が加盟した。(103 字)

問 4 ピット

問 5 オランダから独立して、ベルギー立憲王国が成立した。(25 字)

問 6 聖職者が属する第一身分、貴族が属する第二身分、平民が属する第三身分に分かれており、人口の 1 割にも満たない第一・第二身分が重要官職を独占し広大な土地を所有する一方で、人口の 9 割以上を占める第三身分は地代や税負担のために苦しい生活を送り、政治的発言権もなかった。(129 字)

問 7 民族運動が高揚し、諸国民の春とよばれる状況が生まれた。ベルリン、ウィーンでは三月革命が勃発し、前者ではフランクフルト国民議会の開催につながり、後者ではメッテルニヒが失脚してウィーン体制が崩壊した。ベーメンとハンガリーでは独立運動が起きたがオーストリアに鎮圧された。(132 字)

問1 難易度：★★★★☆

解答

(①)E (②)C (③)B (④)D

解説

Aは1789年にラ=ファイエットらが起草した『人権宣言』である。Bは1814～15年のウィーン会議についての資料である。Cはルイ16世処刑のときのロベスピエール演説の資料であるから、1793年のものである。Dはシャルル10世による統治の終了を示していることから1830年の七月革命についての資料である。Eはシェイエスの『第三身分とは何か』の抜粋であり、フランス革命勃発以前のものである。Fはフランス二月革命についての資料であるから、1848年のものである。

以上を参考にすると、E⇒A⇒C⇒B⇒D⇒Fのような順番になる。フランス革命期間は短期間にさまざまな出来事があり混乱しやすいので、時系列を正確に覚えておこう。

問2 難易度：★★★★☆

解答

所有権

解説

フランス人権宣言の中身まで学習している受験生は少ない。ヒントも少なく難しい問題ではあるが、この問題を機に人権宣言のおおまかな中身を知っておくとよいだろう。『人権宣言』の第17条には「所有権は、神聖かつ不可侵の権利」と記されている。

問3 難易度：★★★★☆

(1)

解答例

ツァーリがポーランド王位を兼任したことにより、ポーランドは事実上ロシア領となった。(41字)

設問の要求

字数 横 13.4cm×縦 2.1cm

主題 ウィーン会議の結果、ポーランドがどうなったのか

解説

設問文中の「この国際会議」とはウィーン会議のことであるから、ウィーン会議を経てポーランドがどうなったのかを記述すればよい。18世紀後半、ロシア・プロイセン・オーストリアによるポーランド分割の結果、ポーランドは消滅した。ナポレオン1世は東方進出の過程でプロイセン・ロシアと締結したティルジット条約により、プロイセン領ポーランドにワルシャワ大公国を建国したが、ワルシャワ大公国はナポレオン1世失脚とともに崩壊した。フランス革命後の秩序再建のため開催されたウィーン会議でポーランド立憲王国が成立しポーランドは復活したが、ロシア皇帝がポーランド王を兼任したため、ポーランドの独立はかなわず事実上のロシア領となった。

(2)

解答例

ウィーン会議中に成立したキリスト教の友愛精神にもとづく君主間の同盟で、自由主義やナショナリズムの運動を抑えることを目的とした。イギリス王・オスマン帝国スルタン・ローマ教皇を除くヨーロッパの全君主が加盟した。(103 字)

設問の要求

字数 横 13.4cm×縦 2.8cm

主題 神聖同盟について

解説

ウィーン体制下の欧米では、ナショナリズムや自由主義を抑制するためにさまざまな同盟が結成された。そのうちの1つが**神聖同盟**である。1815年9月に**アレクサンドル1世**の提唱で成立した神聖同盟はキリスト教の正義・友愛の精神にもとづく君主間の精神的盟約であり、**ウィーン体制の補強に貢献した**。イスラム国家である**オスマン帝国**、新教国とのいかなる協力をも拒む**ローマ教皇**、産業革命のさなかヨーロッパの外に目を向けていた**イギリス**を除く全ヨーロッパの君主が参加した。

問4 難易度：★★★★☆**解答**

ピット

解説

ルイ16世の処刑を契機として急進化したフランスを危険視したイギリス首相**ピット**は1793年に第1回対仏大同盟の結成を提唱した。ちなみに、第2回対仏大同盟はナポレオンのエジプト遠征を契機として、第3回対仏大同盟はナポレオンが皇帝に即位した際に、フランス第一帝政への対抗を目的として結成された。

問5 難易度：★★★★☆**解答例**

オランダから独立して、ベルギー立憲王国が成立した。(25 字)

設問の要求

字数 横 14.1cm×縦 2.1cm

主題 七月革命の影響でベルギーに生じた変化

解説

ベルギーはネーデルラント南部の地域で、オランダ独立戦争の際にはスペイン領にとどまったが、スペイン継承戦争時のラシュタット条約でオーストリア領となり、その後ウィーン会議でオランダ領となっていた。**ウィーン体制下の自由主義と民族主義の高揚を受けたベルギーは、七月革命を契機として独立した**。ベルギーの独立はオランダにとって経済的に大きな痛手であり、東南アジアでの強制栽培制度の実施につながった。

問6 難易度：★★★★☆

解答例

聖職者が属する第一身分、貴族が属する第二身分、平民が属する第三身分に分かれており、人口の1割にも満たない第一・第二身分が重要官職を独占し広大な土地を保有する一方で、人口の9割以上を占める第三身分は地代や税負担のために苦しい生活を送り、政治的発言権もなかった。(129字)

設問の要求

字数 横 14.1cm×縦 3.5cm

主題 アンシャン・レジーム（旧制度）におけるフランスの身分制

解説

アンシャン＝レジームの身分制について述べる問題である。フランス革命勃発以前のフランスにおける政治・社会体制のことをアンシャン＝レジーム（旧体制）といい、国王を頂点とした封建的身分制度が残存していた。旧体制の身分は、聖職者が属する第一身分、貴族が属する第二身分、平民が属する第三身分の3つに分かれており、全人口の約2%にすぎない第一・第二身分は特権身分とよばれ、彼らが土地の約40%を所有するなど、富の偏在が激しかった。さらに、彼らは重要官職を独占し、免税特権も有していた。第三身分の平民は農民と市民から構成され、その大半を農民が占めていた。平民には政治的な発言力が与えられず、経済的には重税に苦しめられていた。

問7 難易度：★★★★☆

解答例

民族運動が高揚し、諸国民の春とよばれる状況が生まれた。ベルリン、ウィーンでは三月革命が勃発し、前者ではフランクフルト国民議会の開催につながり、後者ではメッテルニヒが失脚してウィーン体制が崩壊した。ベーメンとハンガリーでは独立運動が起きたがオーストリアに鎮圧された。(132字)

設問の要求

字数 横 14.1cm×縦 3.9cm

主題 二月革命が他のヨーロッパ諸国に与えた影響

解説

七月王政を倒した革命は1848年の二月革命であるから、二月革命が他のヨーロッパ諸国に及ぼした影響について述べればよい。二月革命に触発されて各国で民族運動が高揚したことを諸国民の春とよぶ。以下では、諸国民の春の具体的内容について説明する。オーストリアではウィーン三月革命が勃発しメッテルニヒが失脚した。これによりウィーン体制は終わりを迎えた。ハンガリーでは自由主義を求める民族運動が開始され、1849年にはコシュートがオーストリアからの独立宣言を発布したが、ロシア軍の援助を受けたオーストリア軍によって鎮圧された。ベーメンではオーストリア内のスラブ民族結束を目指してスラブ民族会議が開催され、プラハで独立蜂起が起きたがオーストリア軍により鎮圧された。イタリアではミラノで民族運動が起き、サルデーニャ王国がオーストリアに対して宣戦布告したが、オーストリアに鎮圧された。また49年には青年イタリアがローマ共和国を樹立したが、フランスに鎮圧された。ドイツではベルリン三月革命が勃発し、プロイセン王が憲法制定を約束して引退した。その後、憲法制定とドイツ統一の方法をめぐるフランクフルト国民議会が開催されることと

なった。イギリスではチャーチスト運動が最後の高揚をみせた。

これだけの内容を限られた解答欄に書き尽くすのは不可能であるので、適宜うまくまとめて解答を作成してほしい。解答例では、ドイツ・オーストリア・ペーメン・ハンガリーについてまとめた。

(是永郁治, 林遼河, 谷口昂輝)

2015 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題IV ユーラシア東半部におけるムスリム海上勢力の活動と影響

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 出題範囲 | 中世～近代の政治・社会史 |
| 難易度 | ★★★★☆☆ |
| 所要時間 | 30分 |
| 傾向と対策 | 東西交流という扱いにくい事象がテーマであり、正確な知識とそれを論理立てて整理する力が必要である。イスラーム側の動き（原因）によって東アジア・東南アジアがどう影響を受けたか（結果）という因果関係を正確に把握して、まとまった論述を書けるようにしよう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について、英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 80 | 0 | 年 |
| 8 | 00 | 年 |

1200 年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 12 | 00 | 年 |
|----|----|---|

ASEAN の場合

| | | |
|----|----|---|
| AS | EA | N |
|----|----|---|

解答例

8 世紀にムスリム商人が海上に進出すると、中国、東南アジアにまで到達した。唐では商船に対応するため貿易の管理を行う市舶司が、外国商人の居留地として蕃坊が設置された。東南アジアではムスリム商人の活動の結果アラビア語などが商業語になりディナール金貨が普及し、ウラマーやスーフィーの影響でイスラームが伝わった。13 世紀に交易の主役となったムスリム商人は元が整備したジャムチや大運河、港灣を利用して陸海の交易ネットワークを作り上げた。東南アジアではムスリム商人との結びつきから支配者が改宗する例がみられ、15 世紀にマラッカ王国がイスラーム教国となるとイスラーム教が普及し始めた。16 世紀にはポルトガルがマラッカを占領したことを受けムスリム商人がスンダ海峽を利用するようになり、その拠点としてマタラム王国などが栄えた。(350 字)

設問の要求

字数 350 字以内

主題 海で活動するムスリム商人およびイスラーム国家が東アジア・東南アジアに与えた影響

条件 指定語句を参考にする

指定語句をすべて用いる必要はない

解説

(1)問題考察

本文に「ユーラシア東半部」とあること、参考語句に「蕃坊」「マラッカ」「マタラム」などがあることから、本問の指定地域は東アジアおよび東南アジアである。また、イスラームの海上進出開始が8世紀であることから、本問の指定期間は8世紀から16世紀末である。これに加えて、「ムスリム海上勢力」という言葉に注意したい。問題文前半で「ムスリム商人」という言葉を使っているにもかかわらず、問いの部分では「ムスリム海上勢力」に言い換えられている。これは指定語句に「マラッカ」などがあることからわかるように、イスラーム国家も包含することを示している。よって設問要求は、**海を中心に活動するムスリム商人およびイスラーム国家が東アジア・東南アジアに与えた影響を、政治・経済・社会的観点から述べよ**ということになる。本問でいう影響とは、イスラーム側が東アジア・東南アジア側に与えた影響であるので、相互に及ぼした影響を書く問題ではないことに注意しよう。与えられた語群はあくまで参考語句なので使用しなくても問題ないが、作問者は意図があって語群を提示しているのだから、該当するものは使用するのが無難である。

(2)参考語句解説

香料貿易

香辛料を求めるヨーロッパと、それを産出するインド・東南アジア間の貿易。従来はイスラーム勢力が支配していたこの貿易に、15世紀からポルトガルが参入した。

鄭和

永楽帝に仕えたイスラーム教徒の宦官。永楽帝の命令で大艦隊を率いて**南海遠征**を行い、明への朝貢を促した。大遠征の際にはマラッカを拠点とした。

蕃坊

唐代から来航するようになったムスリム商人のための外国人居留地。

オランダ

17世紀よりオランダは東南アジアへの進出を本格化させ、ポルトガルの支配下にあったマラッカなどを制圧して香料貿易を独占した。なお本問の指定期間は16世紀末までなのでオランダについては言及しなくてよいと考えられる。

ポルトガル

15世紀末にインド航路を開拓したポルトガルは、ゴア・マラッカを占領し中国のマカオに居住権を得た。マラッカ海峡を支配することで香料貿易の独占を図ったが、ムスリム商人は航路を変更してスダダ海峡を利用する

ようになったため独占の試みは失敗した。この航路変更によりアチェ王国・バンテン王国・マタラム王国などが栄えた。

マタラム

16 世紀半ば、中部ジャワに成立したイスラーム王国。マラッカがポルトガルの侵攻を受けたことから、マラッカ海峡に代わってスンダ海峡を利用するようになったムスリム商人によって栄えた。

マラッカ

14 世紀に成立したマラッカ王国は、南シナ海とインド洋を結ぶ貿易の結節点として栄えた。また国王がイスラーム教に改宗しイスラーム教国となると、イスラーム布教の中心地ともなった。

モンゴル

13 世紀に元が駅伝制度であるジャムチを整備したこと、また大運河や泉州・広州などの港湾を整備したことで、陸海の交易ネットワークが結びついて大交易圏が誕生した。陸のネットワークの中心となったのはムスリム商人の隊商交易であった。

(3)論述内容について

8 世紀、ムスリム商人が海上進出を開始すると、彼らは唐代の中国にまで到達した。唐の港にはムスリム商人をはじめとしてさまざまな商船が来航した。→寧波・泉州・広州には貿易の管理を行う市舶司が設置され、外国商人の居留地として蕃坊が設置された。

ムスリム商人は東南アジアにも到達し商業活動を行った。→同地域ではアラビア語やペルシア語が共通の商業語になり、イスラーム世界で流通するディナール金貨が流通した。

東南アジアにはムスリム商人とともにスーフィー・ウラマーが来訪した。→イスラームが伝わった。

13 世紀、ムスリム商人が交易の主役となった。→元によるジャムチの整備、大運河や泉州・広州など港湾の整備によりモンゴル帝国のもとで陸海の交易ネットワークが誕生した。

13 世紀、スマトラ島北部などで現地の支配者がムスリム商人と結びついた。→支配者が改宗する例がみられた。

15 世紀、鄭和の遠征拠点となったマラッカ王国の王家がイスラーム教を受け入れた。→イスラーム教が各地に広まった。

香料貿易の独占を狙ったポルトガルがマラッカを占領したことでムスリム商人はマラッカ海峡を避けスンダ海峡ルートを利用するようになった。→スンダ海峡周辺でアチェ王国・バンテン王国・マタラム王国などが栄えた。

(是永郁治, 高荷圭太郎, 谷口昂輝)